

## たじみん昼話 113

### 耳垢でルーツが分かる

今から数十年前、キキョウがヨーロッパを旅行しているとき、イギリス以外の現地の人々の発音があまりに聞き取りにくくて、「これは耳が詰まっているに違いない」と自分の聞き取り力を棚に上げて、耳かきを求めて数件のお店を探し回った記憶がある。

9店回ったが見つからず、仕方なく掃除の歯切れの悪い綿棒を買った。こちらの方は、あの爽快な耳かき棒ではなく綿棒で事足りるのか？はたまた耳掃除をしなくても平気な耳構造なのか？文化か？と不思議に思いながら、耳かき掃除をした。

なぜヨーロッパでは、綿棒しか売っていないのだろうか。

その答えは遺伝子が持っていた。人間の耳垢は遺伝子によって、粉状の乾型と、粘り気のある湿型の2種類に分かれるのだそうだ。つまり、綿棒は耳垢が湿型の人用で、耳かきは耳垢が乾型の人用のお掃除道具ということだ。

欧米の人の耳垢は、湿型がほとんどで乾型はあまりいない。だから、耳掃除の道具と言えば綿棒になり耳かき棒は販売しないのだ。一方、日本は70～80%の人の耳垢が乾型であるため、耳の掃除道具と言えば、耳かき棒が主流なのだそうだ。

世界の耳垢事情を調査すると湿型が圧倒的に多く、東アジアの黄色人種の少数が乾型なのだそうだ。だから耳かきを使った耳そうじもこの地域に限られるのだ。

ちなみに日本人の先住民だった縄文人の耳垢は、欧米の人たちと同様に湿型ばかりだったそうだ。その後弥生時代になり渡来人が行き来するようになると、乾型の遺伝子が持ち込まれ、この乾型の遺伝子が湿型の縄文人と混血した結果、現在のようになり湿型と乾型が混在して存在するようになったのだそうだ。

ということは、耳垢でご先祖様が分かるということだ。湿型なら縄文人、乾型なら弥生人ということだ。

長崎大学の新川教授と県立長崎西高校が共同で行った、都道府県別の乾型遺伝子出現率(対象1963人)の調査によると、岐阜県は、京都に次いで乾型が多いということなので、弥生人をご先祖様を持つ人が多いということになる。

皆さんの耳垢は、湿型ですか、それとも乾型ですか？